

採点欄	
第1問	

平成28年度 ラストスパート模試・第2予想
第144回対策 答案用紙

受験番号 _____

氏名 _____

生年月日 _____

2 級 ①

商業簿記

× (ココロトジル) ×

第1問 (20点)

	仕		訳	
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

受験番号 _____

氏名 _____
生年月日 _____

× (コゴロトジル) ×

平成28年度 ラストスパート模試・第2予想

第144回対策 答案用紙

2 級 ②

商業簿記

採点欄	
第2問	

第2問 (20点)

問1

銀行勘定調整表

平成28年3月31日

(単位:円)

企業の当座預金勘定の残高	()	銀行の残高証明書の残高	()
加算: []	()	加算: []	()
減算: []	()	減算: []	()
	()		()

問2

	企業側の修正仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
①				
②				
③				
④				

問3

現金過不足の金額 ¥ () (過 剰 ・ 不 足)

(注) () 内の「過剰」または「不足」を○で囲むこと。

受験番号

氏名

生年月日

× (ココヲトジル) ×

平成28年度 ラストスパート模試・第2予想

第144回対策 答案用紙

2 級 ③

商業簿記

採点欄

第3問

第3問 (20点)

損益計算書

自平成27年4月1日 至平成28年3月31日

(単位:円)

I 売上高	()	()
II 売上原価		
1. 期首商品棚卸高	()	
2. 当期商品仕入高	()	
合計	()	
3. 期末商品棚卸高	()	
差引	()	
4. 棚卸減耗損	()	
5. ()	()	()
売上総利益	()	()
III 販売費及び一般管理費		
1. 給料	()	
2. 保険料	()	
3. 減価償却費	()	
4. 貸倒引当金繰入	()	()
()	()	()
IV 営業外収益		
1. 有価証券利息	()	
2. 有価証券評価益	()	
3. 受取利息	()	()
V 営業外費用		
1. 支払利息	()	
2. 貸倒引当金繰入	()	()
()	()	()
VI 特別利益		
1. 固定資産売却益	()	
VII 特別損失		
1. 災害損失	()	
税引前当期純利益	()	()
法人税、住民税及び事業税	()	()
()	()	()

受験番号

氏名

生年月日

× (コゴフトジル) ×

平成28年度 ラストスパート模試・第2予想

第144回対策 答案用紙

2 級 ④

工業簿記

採点欄

第4問

第5問

第4問 (20点)

		材		料	
5 / 1	月初有高	550,000	5 / 31	消費高	()
5 / 31	仕入高	()	"	原価差異	()
			"	月末有高	425,000
		()			()
		製造間接費			
5 / 31	間接材料費	()	5 / 31	予定配賦額	()
"	間接労務費	900,000	"	原価差異	15,000
"	間接経費	505,000			()
		()			()
		仕掛品			
5 / 1	月初有高	()	5 / 31	完成高	7,500,000
5 / 31	直接材料費	()	"	月末有高	2,500,000
"	直接労務費	3,250,000			()
"	製造間接費	()			()
		()			()
		買掛金			
5 / 31	現金支払い	()	5 / 1	月初残高	540,000
"	月末残高	300,000	5 / 31	材料仕入高	()
		()			()

第5問 (20点)

A社は直接原価計算方式の損益計算書を採用している。直接原価計算方式の損益計算では、原価（製造原価、販売費および一般管理費）を（①）と（②）とに分解し、売上高からまず①を差し引いて（③）を計算し、③から②を差し引いて営業利益を計算する。

A社の直接原価計算方式の営業利益は1,250,000千円であるが、全部原価計算方式によると営業利益は（④）千円となる。この営業利益の差は、全部原価計算方式において期末棚卸資産に含まれる（⑤）の分である。

A社の貢献利益率は（⑥）%、損益分岐点販売量は（⑦）台である。損益分岐点の販売量と実際の販売量との差を安全余裕度というが、A社の安全余裕度は（⑧）台である。

A社の売上高営業利益率は25%である。売上高営業利益率30%の営業利益を達成するために必要だった売上高は（⑨）千円であり、そのときの③は（⑩）千円である。